

報告 1

第 2 回および第 3 回「尾形尚子記念レクチャー」の報告

東北大学大学院教育学研究科 加藤守通

尾形尚子記念レクチャーは、尾形尚子奨学基金をもとに平成 12 年に設立された。その趣旨は、世界の優れた研究者を招聘し、東北大学教育学部の学部生に向けて講演をしてもらうことにある。通常、一流の研究者が来日するとその分野の専門的なテーマについて話すことが多く、一般の学生は蚊帳の外に置かれてしまう。しかし、一流の研究者にしかできない、学部生向けの良質の講演も存在するべきである。尾形尚子記念レクチャーは、このような趣旨から設立されたユニークな試みである。

本レクチャーの最初のものは、平成 13 年 1 月 12 日にニュージーランド・ワイカト大学教育学部教授 David Mitchell 教授によって、「ニュージーランドの特殊教育と統合教育」という題で行なわれた。その内容は、『教育ネットワーク研究室年報』第 1 号(平成 13 年 3 月)に掲載されている。

ここに掲載する二つの論文は、本レクチャーの第 2 回と第 3 回のものである。

第 2 回のレクチャーは、Geoffrey Earnest Richard Lloyd 卿によるものである。氏は、ケンブリッジ大学名誉教授であるとともに現在ニードム研究所所長を勤めている。また、英国学士院会員でもあり、Sir の称号を授与されている。氏は、西洋古典の研究者として有名であり、日本語で翻訳もいくつか出ているが、それと同時に、ケンブリッジ大学ダーウィンカレッジのマスター(1989-2000)の経験もあり、教育問題への造詣も深い。また、1980 年代後半から中国研究にも着手し、ギリシャと中国の比較をベースにした研究を精力的に展開している。氏の講演「大学 — その使命と歴史」は、平成 14 年 10 月 4 日に行なわれた。通訳は、加藤守通が行なった。

第 3 回のレクチャーは、Paul Standish 博士によるものである。氏は、英国スコットランドの Dundee 大学教育学部の Senior Lecturer(我が国の教授に相当する)であると同時に、Journal of Philosophy of Education 誌の責任編集者であり、英国の教育哲学の新しい潮流を代表する新進気鋭の学者である。氏の講演「道德教育、教養教育、そして個人の声」は、平成 15 年 1 月 28 日に実施された。通訳は、東京大学の齋藤直子氏が行なった。

二つの講演ではともに学部生を中心に 30 名を超える聴衆が参加し、講演後の質疑応答や懇親会でも積極的に講演者と話す機会を得た。

以下、二つの講演の内容を掲載する。